

工 事 論 文

工 事 名 : 平成21年度 治山(奥地保安林)須走地区ｽｶﾞ外工事
施 工 者 : 臼幸産業(株)
執 筆 者 名 : 杉山 和敬
工 種 名 : 谷止工 1式
工 期 : 平成21年10月1日～平成22年3月25日
工 事 内 容 : 鋼製自在枠による治山工事



工事内容 : 渓流侵食の著しい箇所にて鋼製自在枠による谷止工を1基設置し、下流部についてはフトン簗による洗掘防止対策を施し、工事箇所下の東富士五湖道路への不安定土砂流出防止を目的とした工事である。



- 施工上の問題点 : 現場までは林道内を通り、さらに搬入路の縦断勾配がきつく材料搬入は全て不整地運搬車を利用して行うことになった。工事箇所の地山がスコリア層であり、10m以上の掘削を行うため、地山の崩壊のおそれがあった。また標高1100mの積雪寒冷地のため、12月下旬からの積雪が予想された。施工においては、鋼製自在枠内の詰石作業をいかに早く、そしてきれいに詰めるかを検討した。またフトンカゴについては、曲がり、つぶれをいかに軽減し、完成させるかであった。
- 解決策 : 掘削作業の際、右岸側が崩壊してしまったため、簡易土留柵を行い、再掘削を行った。鋼製自在枠の詰石中詰作業では、スケルトンバケットを使用し、不純物の流入を防ぐと共に、人力による矢羽積も行い、美観にも細心の注意を払った。フトンカゴについては、現場付近で採取した雑木をつぶれ防止として使用し、単管やサンギを用いて曲がりを軽減した。
- 工事を終えての反省 : このスガ外工事は3年計画の工事であり、今年度工事で完成するということもあり、既に仕上がっている谷止工を参考にさせてもらいながら、それに負けないような施工を心掛けました。初めて鋼製堰堤という工事に携わり、分からない点、不安な点がいろいろありましたが、会社上司、協力業者、担当監督員の方たちのアドバイスを受け、出来形、品質、美観についても、とても満足がいくものができました。





簡易土留柵 設置状況



簡易土留柵 設置状況



詰石(矢羽積)完了全景



詰石(矢羽積)完了全景



フトンカゴ施工状況



積雪状況